

Word（ワード）は、私たちが普段使っている\*\*Windows（ウィンドウズ）\*\*という仕組みの上で動いています。この Windows の考え方を知っておくと、Word だけでなく他のソフトもぐっと使いやすくなります。

Windows の操作は、一言でいうと「選択して、操作する」という流れで成り立っています。

### 1. 「オブジェクト指向」とは？ → 画面上の「モノ」（オブジェクト）を選ぶこと

Windows の画面に表示されているもの、例えばファイル、フォルダ、アイコン、そして Word 中の文字、写真、図形などは、すべて「モノ（=オブジェクト）」として扱われています。

「オブジェクト指向」という言葉は難しく聞こえますが、要するに「画面にあるモノ（オブジェクト）を、まず指さして（選んで）、それに対して操作をしよう」\*\*という考え方です。

#### • Word での例：

- 文字の色を変えたいなら、その文字をまずドラッグして選びます（モノを選ぶ）。
- 写真の大きさを変えたいなら、その写真をクリックして選びます（モノを選ぶ）。

### 2. 「イベント駆動」とは？ → 選んだ「モノ」に対して「何をするか」決めること

「選択して、操作する」の「操作する」部分が「イベント駆動」という考え方です。モノを選んだら、次に「クリック」「ダブルクリック」「右クリック」「キーボードで入力」「ボタンを押す」といった「イベント（できごと・きっかけ）」を起こします。

#### • Word での例：

- 文字を選んだ後、ツールバーの\*\*色のボタンを「クリック」\*\*する（イベント）。
- ファイルを選んだ後、キーボードの\*\*\$<¥text{Delete}>\$キーを「押す」\*\*（イベント）。
- 選んだ写真の上で\*\*マウスの右ボタンを「クリック」\*\*してメニューを出す（イベント）。

まとめ：すべての操作はこの2ステップ

Word でも Windows 全体でも、基本的な操作はすべてこの「選択」と「操作（イベント）」のセットです。

ステップ1：モノ（オブジェクト）を選ぶ	ステップ2：アクション（イベント）を起こす
例：文字をドラッグする、写真をクリックする	例：ボタンをクリックする、右クリックする、キーボードを打つ

Word の学習では、「今、何を選んでいるか（選択状態になっているか）」を常に意識することが、操作を間違えないための最初のコツになります。